

学生支援の現場から

◆ 国際武道大学  
人間教育としての学生支援

田中 守

(学生部長)

房総半島の南部、勝浦の地に本学が設立されたのは昭和五九年（一九八四年）であり、四半世紀が過ぎた。開学当初より、「国際武道大学の学生を温かく迎え入れよう」のスローガンの下、市民のご理解ご協力により、学生たちはこの勝浦を第二の故郷とし、充実した学生生活を送っている。

しかし、山と海に囲まれた小さな街という立地条件から、大学は市民の居住区に隣接し、一般住宅街の中に学生宿舍が点在する。その結果、市民と学生の間にかかるトラブルも少なくはない。その主なものは、学生宿舍での生活騒音とゴミ処理の問題、そして学生のバイク騒音と運転マナーに関する問題（本学学生の約八割がバイク通学）である。

日ごろ様々な機会を捉え教職員一丸となり、生活指導にあたってはいるが、若者のマナー・モラルの低下が著しい昨今、彼らの自覚を待つだけではなかなか改善の効果は上がらず、時に市民からの厳しいお叱りを頂戴するのが実情である。



国際武道大学正面



交通安全教室

一方で、市民との関わりについては、苦情処理といった消極的対応だけに終始するわけではない。以前より本学大学祭と地元の前より本学大学祭と元の産業祭とのタイアップや小中学校におけるスポーツ指導などに積極的に取り組んできたが、その実績を踏まえて、昨年度地域活動支援室を設置し、学生の実地研修をかねた地域貢献活動を推進し

本学では、このような問題に対して、学生部主催の交通安全教室を開催し、バイクの運転技術の向上と交通安全意識の啓蒙に努める他、関係業者のご協力の下、バイクの一点検整備なども実施している。

また、昨年度よりは、勝浦市・警察署・消防署・学生宿舍組合・地元自治会等々との間で「学生生活に関する意見交換会」を開催し、情報の共有化、問題解決への協力体制の確立に努めている。

ている。

その他、体育大学である本学においては、大半の学生が体育系クラブで活動しており、施設設備の整備やケガ等への対応も必要である。また、クラブの運営等に関する指導も重要な任務の一つである。各クラブの主将等を対象に毎年実施している「リーダーズキャンプ」もその一環である。

以上、本学学生部の活動状況の一端をご紹介したが、我々が常に目指すのは、単なるサービス業務としての学生支援ではなく、スポーツマンとして、社会人として世に貢献できる人づくりのための支援である。彼らの大いなる成長を願い、更に業務に励む所存である。



リーダーズキャンプ